

令和5年度 柏原市青少年講座 革細工講座

学科・専攻
リハビリテーション学科
作業療法学専攻
担当教員
中原 啓太、楠田 耕平

連携先
柏原市教育委員会社会教育課

プログラム内容

作業療法では、多くの作業(日常生活活動、趣味活動、仕事など)を活用して、対象者の健康増進や治療を行なっていく。今回は、その中で、革細工を用いて、柏原市の小学生を対象に作品を作る作業を通して、得られる集中力や創造性、人と人とのつながりを経験していただいた。

成果・考察

当日の参加者は、小学校4年生から6年生までの合計9名。参加者と一緒に保護者や兄弟が加わり、最終的に16名の参加者であった。小学生からの参加後の意見は、「作業」や「治療」について知れてよかったです。や「またやりたい。めっちゃめっちゃ楽しかった。」などがあった。また、保護者からは、「学校や家ではできないことをさせてもらえてありがとうございました。本人、とても集中して、楽しく作業している姿も見れて良かったです。」や「子どもへのプレゼントとして、こちらの講座に参加させていただきましたが、社会教育の観点から、作業療法の現場の学びと発見があり、とても有意義な時間でした。こういった生涯学習の学びの現場は、青少年にはありがたいです。」などの意見があった。

病気や怪我を受傷した際に、初めて知る職種としての「作業療法士」ではなく、予防や教育という現場に出て、「作業」の効果や知識を知ってもらおうことが有益であると考えます。



リハビリテーション学科
中原 啓太 助教

革細工をしたことがない初対面の小学生が集まり、2時間の時間内に説明から作品を仕上げるところまでを実施することに対して、無事に終わることが出来るか不安がありました。加えて、革細工の作品を完成させるだけではなく、作業療法という仕事のことも少し知って興味を持ってもらうことも一つの目的でした。

当日は、作業療法学生2名と柏原市の教育委員会の実習生3名も協力していただき、手厚いフォローのもと無事に終了し、全ての参加者からアンケートの結果で満足していただいたという結果でした。革細工という一つの「作業」が人と人を繋ぎ、そして小学生もボランティアで参加してくれた学生も成長する。この相互効果こそが体験こそ教育の根幹であり、「作業」の効果そのものであることを改めて感じた密度の濃い2時間でした。



リハビリテーション学科
2年生 麦野さんと船井さん
(2023年9月現在)

麦野さん

ボランティアに初めて参加したので最初は少し緊張していたけど小学生やお母さんと話すうちに緊張も無くなり楽しかったです。授業で習った革細工をしたり、先生が小学生にしている説明を聞いて自分の復習にもなったし作業についての説明の仕方などが改めて分かった。これからもボランティア活動に参加しそれを生かす子どもの領域で働きたいと思いました。

船井さん

革細工講座のボランティアに参加して、私は同年代以外の人の関わり方の難しさを感じました。最初は、初めて接する子どもたちとどのようにコミュニケーションをとればよいか分からず少し焦りが対応に出ていたと思います。しかし、活動をしていくにつれて子どもたちから積極的に話しかけてくれたことや保護者の方々が優しく接して下さったおかげで私の緊張もほぐれ、より多くの子供たちに私の方から関わりに行くことができました。この活動を通して私は子どもたちと実際に接することは「想像通りにいかないがこっちらから話しかけると必ず返してくれる」ということを学んだのでこれからの活動に是非活かしていきたいです。